

### 3 のじぎく国体に向けたノジギクの選抜と開花調節

#### ねらいと成果

2006年9月30日に開幕するのじぎく国体の会場周辺を県花ノジギクで飾るためには自然開花期が11月になるノジギクを9月下旬に開花させる必要がある。そこで、遺伝的にばらつきのあるノジギクから開花調節が可能な系統を選抜し、9月下旬開花のための短日処理開始時期を明らかにしようとした。その結果、開花調節が容易で、自然味、野性味というノジギクらしさを備えたE系統（園芸部保存系統）を選抜し、この系統を7月上旬から短日処理を開始することにより、国体開会時期である9月下旬に開花させることができた。

#### 内容

姫路市立温室植物園（14系統）、㈱日本触媒（1系統）から入手した系統および農業技術センター園芸部で保存していた1系統、計16系統を実験に供した。これらの系統を2004年4月27日に挿し芽し、5月20日に4号ポットに鉢上げした。5月25日に摘心後、6月8日から7月13日まで1週間毎に短日条件（10時間日長）のガラス温室に搬入し、開花するまで管理した。短日処理は光遮断カーテンを17時～20時、4時～7時に展張した。わい化処理はダミノジッド（商品名：ピーナイン）4000 ppm 溶液を摘心

1、3週間後および短日処理開始4、6週間後に茎葉散布した。

花色は白色以外に黄色や桃色が4系統にみられ、これらは総じてわい化効果、開花調節に適した特性を備えており、園芸商品としての価値が認められた。しかし、ノジギク本来の花色と異なるため、選抜対象から除外した。系統名11は白色であったが、ノジギクらしい自然味、野性味に乏しいため、これも選抜対象から除外した。また高温に起因する奇形（柳芽、花卉の反り返り、葉の黄化）が観察された系統も選抜対象から除外し、最終的にわい化効果がやや低いものの開花調節に適したE系統を国体用として選抜した（表1、図）。この系統は短日処理開始から80日前後で開花し、奇形が発生せず、花径は無処理区よりやや小さくなるものの短日処理により多くの頭状花（200個前後）をつける特性がみられた。これの短日処理開始時期を7月上旬にすれば国体開会時期である9月下旬に見頃になった（表2）。

#### 今後の課題

今年度は、鉢上げ時期を遅らせてわい化剤の処理回数を減らしつつ草丈を抑える草姿改善試験を現地委託農家と共同で実施する。

小山佳彦（農業技セ・園芸部）

表1 種々のノジギク系統に及ぼすわい化処理、短日処理の影響からみた適性評価

系統名	花色	わい化効果	開花調節	奇形の発生	園芸商品の価値	系統名	花色	わい化効果	開花調節	奇形の発生	園芸商品の価値
1	白	△	×	有	×	13	白	○	×	有	×
2	白	△	×	有	×	15	白	×	×	有	×
3	白	△	×	無	×	18	桃	△	○	無	○
4	白	△	△	有	×	19	白	×	△	有	×
6	桃	○	○	無	○	20	白	○	○	有	×
9	黄	○	○	無	○	21	白	△	○	有	×
10	黄	○	○	無	○	N	白	×	○	有	×
11	白	○	○	無	○	E	白	△	○	無	×

系統名:1～21:姫路市立手栢山温室植物園における番号。N:㈱日本触媒保存系統。E:園芸部での保存系統  
 わい化効果:ダミノジッド処理によるわい化率(処理区/無処理区) ○:50%以下 △:51～70% ×:71%以上  
 開花調節:短日処理日毎の開花所要日数の変動幅 ○:10日以内 △:11～15日 ×:16日以上  
 奇形の発生:柳芽の発生、花卉の反り返り、下葉の黄化の程度により判定  
 園芸商品の価値:開花調節に適し、わい化効果が高く、草姿や花色に商品価値が認められるもの



図 短日処理したE系統

表2 短日処理開始日がノジギクE系統の開花と形質に及ぼす影響

短日処理開始日	発蕾日	発蕾所要日数	開花開始日	開花所要日数	草丈	分枝数	頭状花数	花径
(月・日)	(月・日)	(日)	(月・日)	(日)	(cm)	(本)	(個)	(mm)
6. 8	7. 2	24	8. 30	83	33	6	208	20
6. 15	7. 10	25	9. 5	82	33	7	196	23
6. 22	7. 19	27	9. 16	87	36	6	213	19
6. 29	7. 23	24	9. 16	80	42	6	218	22
7. 6	7. 30	24	9. 22	79	43	6	233	22
7. 13	8. 5	23	9. 29	78	39	6	241	22
無処理	9. 19	—	11. 5	—	62	9	64	30

開花所要日数:短日処理開始日から開花開始日までの日数  
 無処理:自然日長下でわい化剤(ダミノジッド)処理無し